

平成 29年度 保育園評価書(ひえい平保育園)

めざす人間像

・優しく思いやりのある子ども ・満足するまで夢中になって遊ぶ子ども ・のびのびと自分らしく表現する子ども ・心も身体も健康な子ども ・ハート(心)のふるさと地域を愛する子ども

大項目	中項目	NO	小項目	自己評価		現況 (園の特徴、特色など評価できる事項)	今後取り組むべき検討課題など
				小項目 評定	中項目 評定		
子どもの 発達援助	発達援助の基本	1	園の理念や方針を理解し、地域性を考慮した指導計画の作成	A	A	・幼保一体化施設としての特徴や小規模学区の地域性を捉えて、『保育・教育目標』を設定している。 ・H30年度の幼稚園の3歳児保育実施に伴い、3歳児保育カリキュラムの見直しを行っている。	・平成30年度保育指針の改訂に伴う、保育課程の見直しをしていきたい。 ・小規模を生かす反面、少人数ゆへのクラス編成の難しさもある。子どもの発達に見合う集団の作り方や保育内容の工夫が必要である。
		2	保育課程や指導計画の見直しの実施と保育への反映	B			
	生きる力の基礎 の育成	3	基本的生活習慣の育成	A	A	・一人ひとりの生活リズムを把握し、保護者と連携をとりながら、授乳時間や昼寝のとり方等配慮している。 ・異年齢の交流を多面的に行い、いろいろな人への興味や関心と共に頼りにされることでの自尊心の育みを大切にしている。 ・畑での作物の栽培や収穫、クッキング保育等を繰り返し行い、食への関心や喜びが感じられるようにしている。 ・子どもの自主的な活動を重視し、自分で考えたり決めたりできるような環境と関わりを行い、自己肯定感が育まれるようにしている。	
		4	一人ひとりの生活リズムに合わせた保育への配慮	A			
		5	自発的に活動できる環境作り	A			
		6	遊びや生活を通しての人間関係の育み	A			
		7	自分に手ごたえを感じられる保育の取組み	A			
	一人ひとりを大切にする保育の 推進	8	一人ひとりの人格の尊重と互いに認め合える関係を大切にする保育	A	A	・年長児はCAPプログラムを受講し「安心、自由、自信」の権利と自分の守り方を学び、人権意識につながるようにしている。 ・一人ひとりの子どもの発達課題を見出し、関係機関と連携を図りながら、子どもと保護者の支援を進めている。(発達相談員・すこやか相談・子ども家庭相談室など) ・障害児の個別目標の設定、巡回相談を通して、個々の課題を明らかにし、保育に生かしている。 ・文化の違いに配慮し、お茶の代わりに湯冷ましを用意したり、日本語以外でもコミュニケーションがとれるよう保育内容を工夫している。 ・各年齢に応じた保健指導を計画的に行い、手洗いやうがい等の衛生面、自分の身体を守る方法を具体的に知り、身につくようにしている。	・CAPプログラムの講習をうけているが、保護者の参加は少ない。人権について、保護者にも考えてもらえるような発信が必要である。 ・長時間保育は、ゆったりと過ごせるような環境作りに心がけているが、今後は朝夕の遊びの充実を考えたい。
		9	障害児の個別への配慮と関係機関との連携の充実	A			
		10	性差への固定的な観念や性別役割分業意識を植え付けない保育	A			
		11	文化の違いを認め互いを尊重し合える関係作り	A			
		12	長時間保育の実施とゆったりと過ごせる環境作り	B			
	豊かな心をはぐくむ保育の 推進	13	一人ひとりへの温かな言葉かけと関わりによる情緒の安定	A	A	・子どもの内面を探り、それに寄り添う関わりを行い、肯定的な言葉かけを心がけ、情緒の安定を図っている。 ・「どんぐりの森」「土手」「びわこの見える広場」「大文字山」などに出かけ、地域の自然環境を活かした保育を積極的に取り入れている。地域に親しみ、大切に育てる気持ちの育ちと自然物に親しみ、慈しみの気持ちが持てるようにしている。	・生き物の飼育栽培を通して、命あるものへの慈しみ気持ちが育つような取り組みを引き続き行っていきたい。
		14	身近な自然や環境を活かした保育	A			
		15	食育を通して、命あるものへのいたわりや愛情の育み	A			
	職員の資質の向上	16	園内研修の実施と自己を高め合う集団作り	A	A	・今年度は、子どもの身体作りに視点を当てて、園内研修をすすめている。各年齢の公開保育と実践検討を計画的に行っている。また、公立園統一のドキュメントシートを用いて子どもの姿の見取りを行い、内面を理解し、保育者の関わりや環境についての検討をし、毎日の保育の振り返りにも役立てている。子どもの内面の受け止めと保育者の関わりが豊かになると共に、子どもの身体作り、運動に関わる教材研究も深まっている。	・今後も子どもの姿をもとに今日的な課題を見出し、子どもの主体性や考える力を育むための遊び作り、環境作りを検証しつつ、保育士の資質向上に努めたい。 ・自分自身のスキルアップをそれぞれに目標を持って取り組んでいきたい。
		17	今日的な課題に関する意識と専門性の向上	A			
		18	自己評価における分析と改善に向けての取組み	A			
	安全・衛生管理の 整備	19	健康や衛生面に配慮し、心地よく過ごせる環境の整備	A	A	・保健担当・業務担当を中心に、日々衛生面に配慮して、大きな感染症の流行はなかった。 ・季節の花や装飾品等の展示を通して、季節感を感じたり本物に触れる機会を大切にしている。 ・小学校との合同避難訓練、引渡し訓練、朝夕など様々な想定をして訓練を行っている。	・嘔吐処理の仕方を徹底していき、今後の感染症予防に努めたい。
		20	緊急時の対応など安全確保のための整備	A			

大項目	中項目	NO	小項目	自己評価				
				小項目 評定	中項目 評定	現況 (園の特徴、特色など評価できる事項)	今後取り組むべき検討課題など	
子育て支援	子育て相談	21	日常的な子育ての相談・助言などの実施	A	A	・日々の送迎時に子どもの様子を伝え、保護者の思いを聞くようにしている。 ・月に1回以上クラスだよりを発行する。園全体に対してもトピックスとして写真を利用した掲示を行っている。 ・ホームページを運用して情報発信をする。	・引き続き、保育内容や子どもの育ちが理解してもらいやすいよう「見える化」をすすめていく。	
	情報提供	22	おたより等による子育てに必要な情報の提供	A				
	保育内容の理解	23	子どもの様子や保育の意図の説明・保護者との相互理解	A	A	・保護者参加行事は、参加率が高く、保護者の意識の高さが感じられる。アンケートをとり、保護者の考えや思いを集約し、更なる充実を図っている。 ・選択参観では、子どもの視点に立ち、共に遊び、子どもの興味関心を知ってもらう機会にしている。子どもの成長や遊びの意味を理解してもらっている。また、そのことが、保育者のモチベーションアップにも役立っている。 ・参観後や誕生会後に保護者同士の交流をもっている。	・今後も保護者の意向を把握し、園運営に反映する。	
	子育て文化の伝承	24	保護者が参加する行事などによる親子体験の実施	A				
		25	懇談会などによる保護者同士の交流	A				
	保護者連携		26	関係機関と連携した要保護家庭に対する適切な対応	A	A	・要保護家庭に関しては関係機関との連携を密にすると共に、保護者とながらうようにして、必要な支援が行えるようにしている。 ・わたげの会(障害児親の会)や学習会に誘い、一人で悩むことが避けられるようにしている。	・会への参加が難しい保護者も多いため、必要に応じて、障害児を持つ保護者の思いをゆっくり聞く機会を持ち、不安や悩みに寄り添い、一緒に考えていけるようにしたい。
			27	障害のある子ども、配慮を要する子どもをもつ保護者への対応	A			
多様な保育		28	延長保育・スポット保育などの実施	A	A	・延長保育、スポット保育を行っている。 ・延長保育では、保育者を固定できているため、親子共に安心して利用できている。		
		*						
地域との関わり・連携	保育園評価	29	協力者会議の実施	A	A	・年間3回協力者会議を行い、園の取り組みや保護者アンケート及び自己評価の公表、保育参観(運動会・作品展・発表会)を通して、園理解を深めていただいている	・協力者には、やまのこひろばでの保育や取り組みの内容と意義を理解してもらっており、学校教育につながる経験と遊びによる学びの積み上げができていると評価を受けている。今後も園の取り組みを発信していくとともに、様々な面で地域とつながっていくようにしたい。	
		30	保育園評価の実施(公表)	A				
		31	自己評価の実施(公表)	A				
	地域(社会)貢献		32	ステーション事業(子育て支援)の実施	A	A	・比叡平団地内の未就園児が増え、地域でただ一つの子育てステーションとしての機能が高まっている。 ・災害時には陸の孤島となりうる地域であるため、緊急時の対応として、園の役割を考え、職員も地域の防災訓練に参加している。また、保護者会が備蓄品を確保している。 ・全戸訪問事業を通して、地域の民生委員との連携が持てること、地域の出生児を把握することにつなげている。	・地域の子育て支援センターとしての役割が大きく、期待もされている。園児との交流や保育に保護者が関わる等、保育の一環として考えていく必要がある。ほのぼの会(赤ちゃんサロン)は0歳児の保育室の参観や保育参加等も意義あるものとして実施していく余地がある。
			33	全戸訪問事業の実施	A			
			34	災害対応機能の役割・AED設置	A			
			35	地域の自治組織との防災連携	A			
	人とのつながり		36	老人クラブとの交流や地域行事への参加・参観	A	A	・職員・保護者を中心に地域の行事に積極的に関わっている。 ・年4回老人クラブとの交流をもっている(七夕・焼いも・落語鑑賞・ひなまつり)お年寄りが子どものペースで関わってもらえるため、子どもが心も身体も緩めて過ごせる機会となっており、親近感を感じている。 ・職場体験・ボランティアを受け入れている。	・今後も様々な人との関わりを大切にして、子どもの育ちに協力してもらえようようにしたい。 ・日頃から交流のある人に対しては、子どもたちが親しみを感じている。地域には、いろいろな人がいることに知り、人とつながっていくことが心地よいこととなるようにしていきたい。
			37	職場体験・実習・ボランティアの受け入れ	A			
	保幼小中連携活動		38	子どもの交流(あそびや行事の取り組みなど)	A	A	・4・5歳児と小学校3・4・5年生が交流を計画的に行っている。職員間で子どもの発達や子ども理解を深め合っている。 ・出前授業や就学相談の充実により、小学校教育へのスムーズな移行ができるように協力している。	・小学校とは積極的に関わっている。スタートカリキュラムの作成についてもアプローチしていきたい。
39			職員交流(子どもの育ちや保護者支援・行事の取り組み)	A				

評定(達成度)の目安

達成度	指 標
A	十分達成できている
B	達成または概ね達成できている
C	やや改善の必要がある
D	改善の必要がある